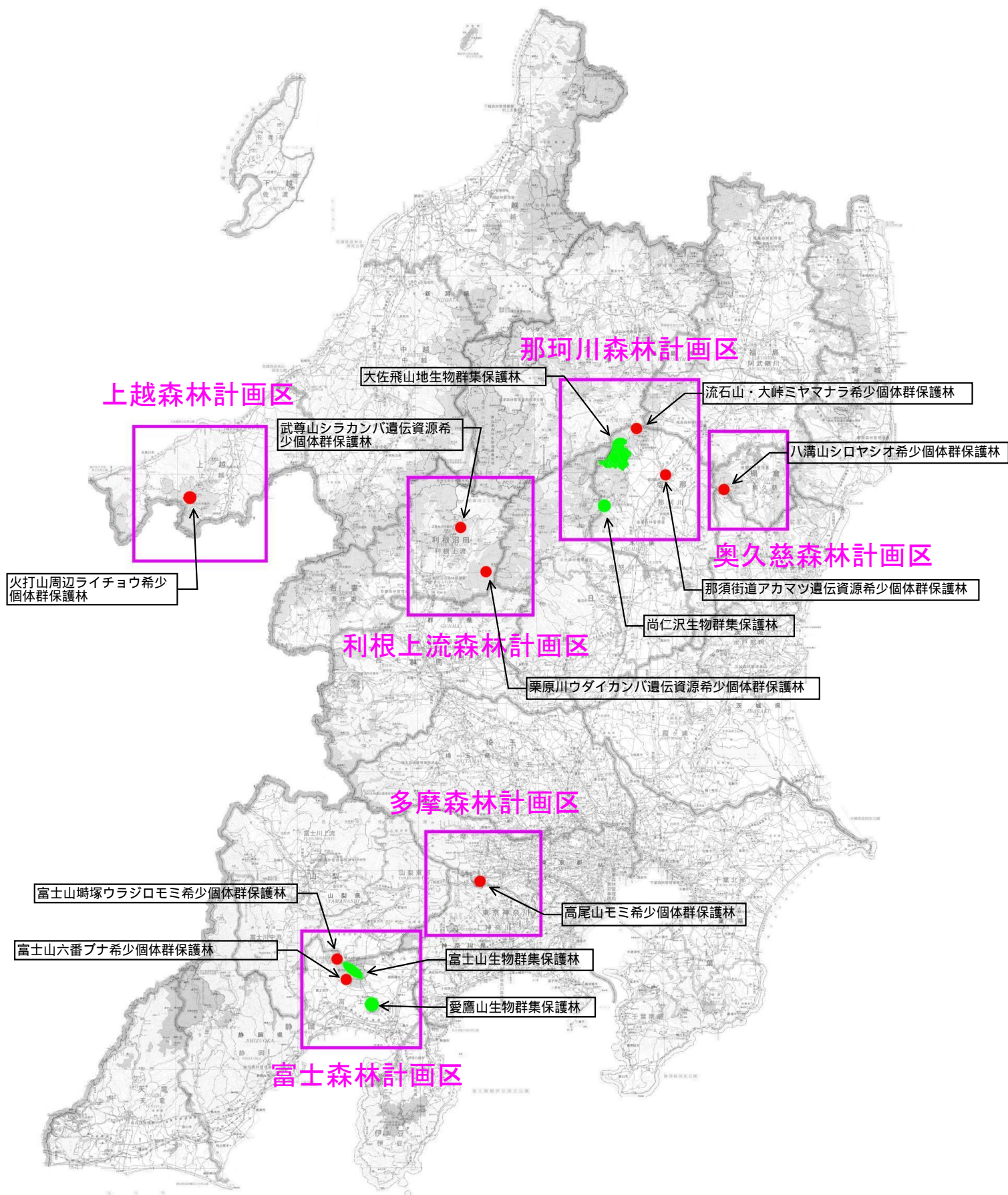


令和6年度保護林モニタリング調査結果一覧表

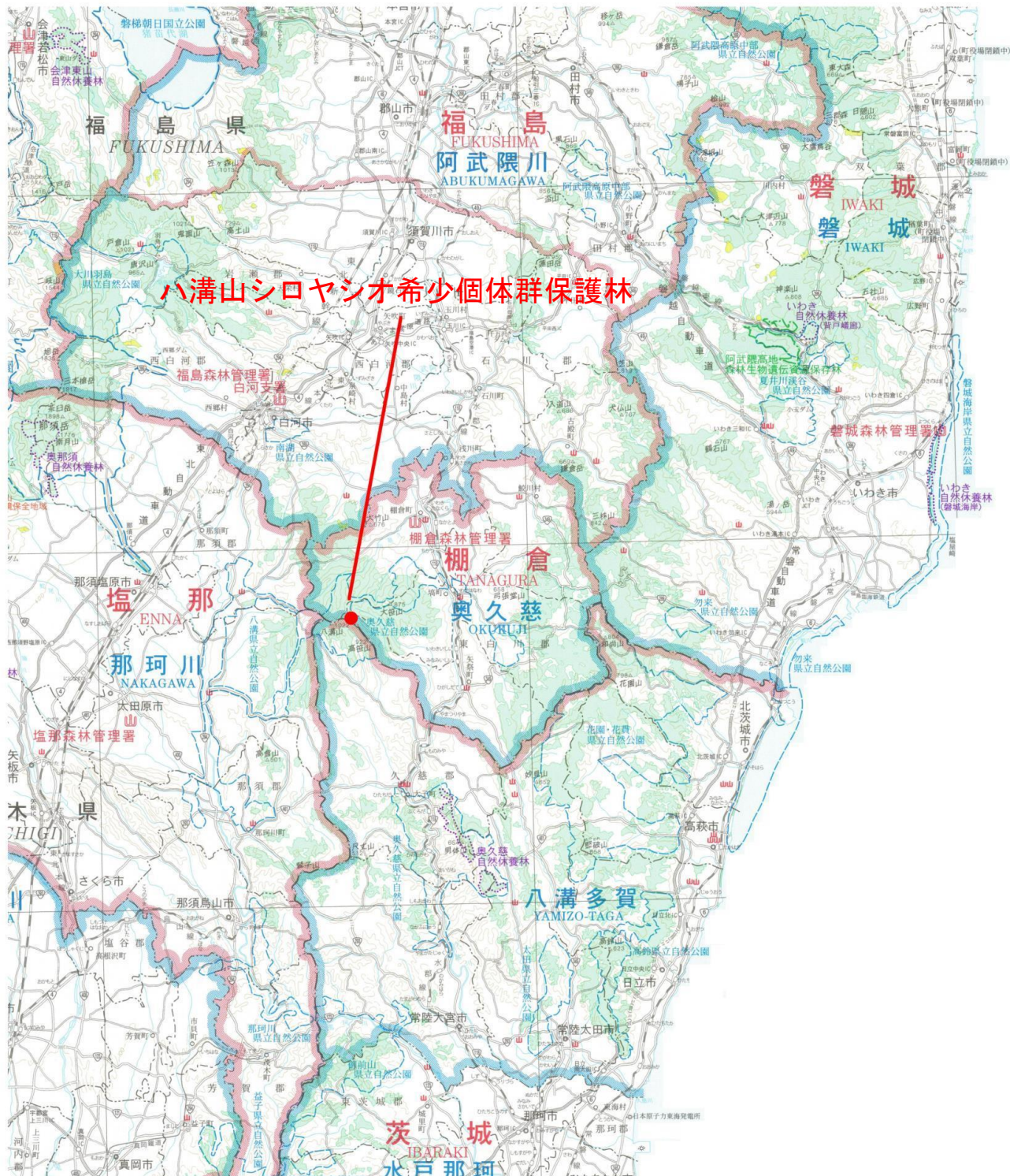
計画区	名称	保護林区分	保護林番号	面積(ha)	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	現場への アクセス	モニタリング間隔に係る5年の要素			ニホンジカ被害 対策の有無 [対策の内容]	実施間隔 (年)	結果概要
奥久慈	八溝山シロヤシオ	希少個体群保護林	13	43.59			○					○	○	オ：病虫害 (カシノガキクイムシ)			○ [捕獲]	5	・保護対象種のシロヤシオの成木が健全に生育しているが、実生・稚樹は少なかった。 ・調査プロット017-1 ではミズナラ等でナラ枯れが多数確認された。 ・ニホンジカによる明確な食害等は確認されなかったが、シロヤシオが健全に生育を継続できるか今後もモニタリングしていく必要がある。
那珂川	大佐飛山地	生物群集保護林	4	8,152.35			○					○	○	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)			× [－]	5	・林相に大きな変化はなく、安定して維持されていると考えられる。 ・ニホンジカによる食害がやや確認され、下層植生が減少傾向にあることから、ニホンジカの採食圧による影響が懸念される。
	尚仁沢	生物群集保護林	5	616.34			○					○	○	オ：鳥獣害、病虫害 (ニホンジカ、カシノガキクイムシ)			× [－]	5	・下層植生が減少しておりシカの影響が高まっていると考えられるため、引き続き、シカ被害の状況に注意してモニタリングしていく必要がある。 ・4 つのプロット全てにおいてシカの食害を受けている樹木を確認。 ・プロット周辺においてミズナラのナラ枯れを確認。
	流石山・大峠ヤマナラ	希少個体群保護林	37	97.31			○					○	○	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)			× [－]	5	・保護対象群落である山頂稜線域の亜高山帯植生は健全な状態で維持されていた。 ・いくつかのプロットではニホンジカの食痕が確認され、この影響により優占種が変化している群落も存在している。 ・今後ニホンジカの個体数が増加した場合、短期間に植生変化が生じる可能性があるため今後もモニタリングしていく必要がある。
	那須街道アカマツ遺伝資源	希少個体群保護林	38	41.81			○					○	○	ウ：個体群	オ：病虫害 (マツ枯れ)		× [－]	5	・保護対象種のアカマツの成木は健全に生育していた。調査プロット020-2では実生が確認されたが、020-1 では確認されなかった。 ・土壌はA 層が厚く、アカマツ以外の植物が生育しやすく、アカマツ稚樹が被圧されやすい環境であると考えられる。 ・調査プロット内ではマツ枯れやニホンジカによる食害等は確認されなかった。
利根上流	栗原川ウダイカンバ遺伝資源	希少個体群保護林	41	11.75			○					○	○	ア：遷移	ウ：個体群	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)	× [－]	5	・保護対象種のウダイカンバの成木は健全に生育していたが、稚樹、実生は少なかった。 ・調査プロット内ではニホンジカによる食害や樹皮の剥皮が確認されたため、ウダイカンバが健全に生育を継続できるか今後もモニタリングしていく必要がある。
	武尊山シラカンバ遺伝資源	希少個体群保護林	45	8.60			○					○	○	ア：遷移	ウ：個体群		× [－]	5	・保護対象種のシラカンバの成木は健全に生育していたが、稚樹、実生は確認されなかった。 ・調査プロット内ではニホンジカによる食害は確認されなかったが、角研ぎは確認されたことや下層植生が減少していることから、シラカンバが健全に生育を継続できるか今後もモニタリングしていく必要がある。
上越	火打山周辺ライチョウ	希少個体群保護林	62	826.74			○					○	○	ウ：個体群	カ：温暖化		× [－]	5	・植生調査地点全体としては大きな変化はないが、一部地点では火打山のライチョウの主要な採食植物であるコケモモやヘビナイチブなどが減少。 ・火打山山頂付近でライチョウの羽を確認。 ・令和6年度環境省の調査報告において、ライチョウの雛を確認。環境省・新潟県等が行うイネ科草本の除去により一部生息環境の改善が示唆されている。 ・生息環境の衰退を食い止めるためイネ科植物の除去を検討する。 ・営巣環境としてハイマツ林ではなく風衝低木林を利用する可能性があるため、植物群落における利用特性を把握する必要がある。
多摩	高尾山モミ	希少個体群保護林	48	4.85			○					○	○	オ：鳥獣害、病虫害 (ニホンジカ、カシノガキクイムシ)			× [－]	5	・保護対象種のモミの成木は健全に生育しているが、実生・稚樹が少ない。 ・下層植生が減少しておりシカの影響が高まっていると考えられるため、引き続き、シカ被害の状況に注意してモニタリングしていく必要がある。 ・3 つのプロット全てにおいてカシノガキクイムシの穿孔痕跡がみられた。
富士	愛鷹山	生物群集保護林	11	723.74			○					○	○	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)			× [－]	5	・林相に大きな変化はなく、安定して維持されていると考えられる。 ・ニホンジカによる食害がやや確認され、下層植生が減少していることから、ニホンジカの採食圧による影響が懸念される。 ・アシタカツツジについては、登山道沿いに生育が確認され、プロット049-2 内では確認されなかった。アシタカツツジの生育地を目的とする場合には、生育地に調査プロットを移設することも検討する。
	富士山	生物群集保護林	12	1,027.09			○					○	○	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)			○ [防護柵]	5	・林相に大きな変化はなく、安定して維持されていると考えられる。 ・ニホンジカによる食害がやや確認され、下層植生が貧弱であったり減少したりしていることから、ニホンジカの採食圧による影響が懸念される。
	富士山鳴塚ウラジロモミ	希少個体群保護林	65	4.84			○					○	○	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)			△ [防護柵予定]	5	・保護対象種のウラジロモミの成木は健全に生育しているが、実生・稚樹が少ない。 ・下層植生が非常に貧弱でシカの影響が高まっていると考えられるため、引き続き、シカ被害の状況に注意してモニタリングしていく必要がある。
	富士山六番ブナ	希少個体群保護林	66	6.17			○					○	○	オ：鳥獣害 (ニホンジカ)			○ [防護柵]	5	・保護対象種のブナの成木は健全に生育しているが、実生・稚樹が少ない。 ・保護柵内外で下層植生の状況が大きく異なり、シカの影響が高まっていると考えられるため、引き続き、シカ被害の状況に注意してモニタリングしていく必要がある。

※5年の要素 ア：遷移の途中段階にある保護林 イ：復元を行っている保護林 ウ：保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林 エ：保護林外部からの影響を受けている保護林 オ：鳥獣・病虫害被害が顕著にある保護林 カ：温暖化により影響が顕著にある保護林 キ：その他、短期間で大きな変化が想定される保護林

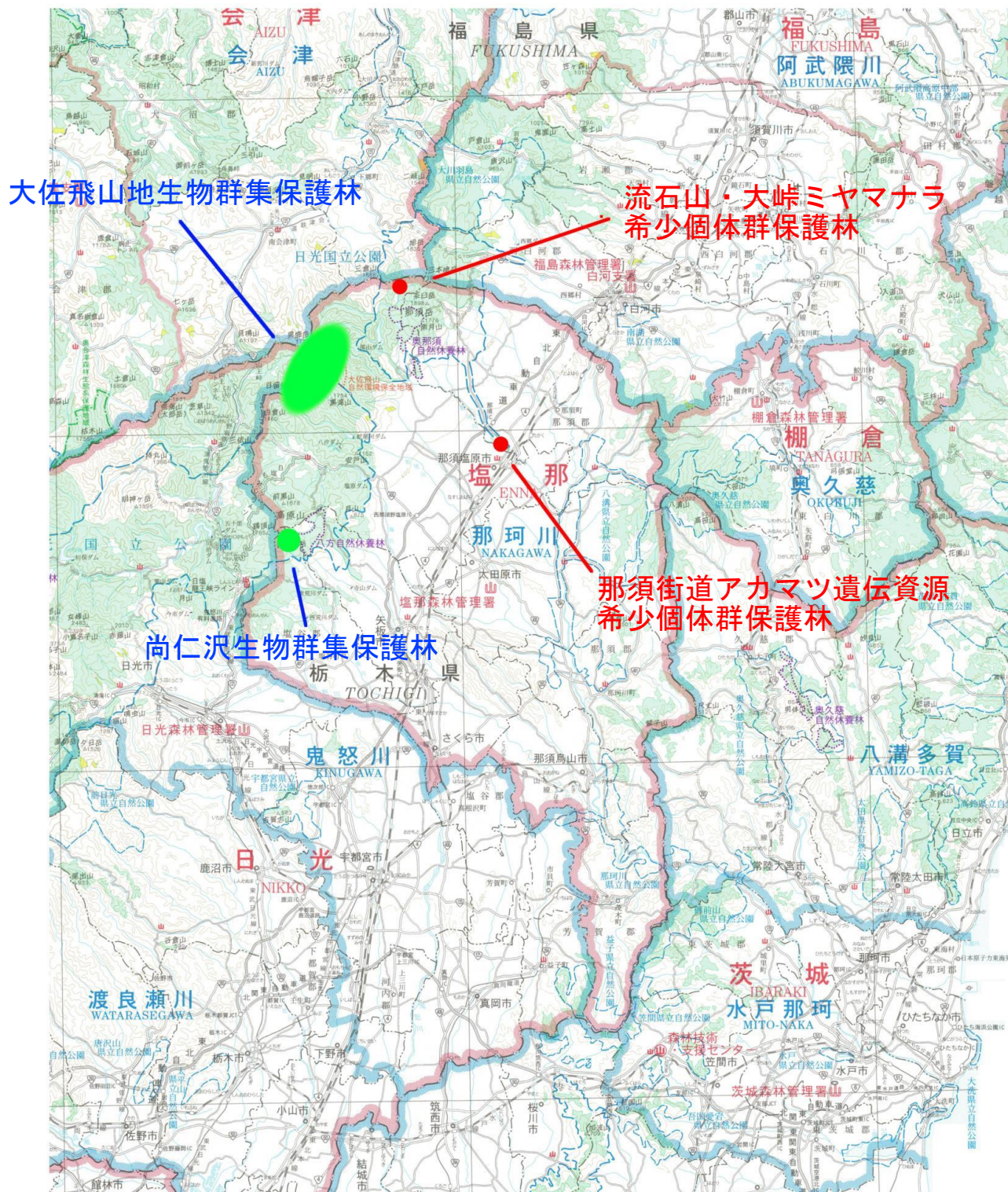
令和6年度 保護林モニタリング調査対象箇所（位置図）



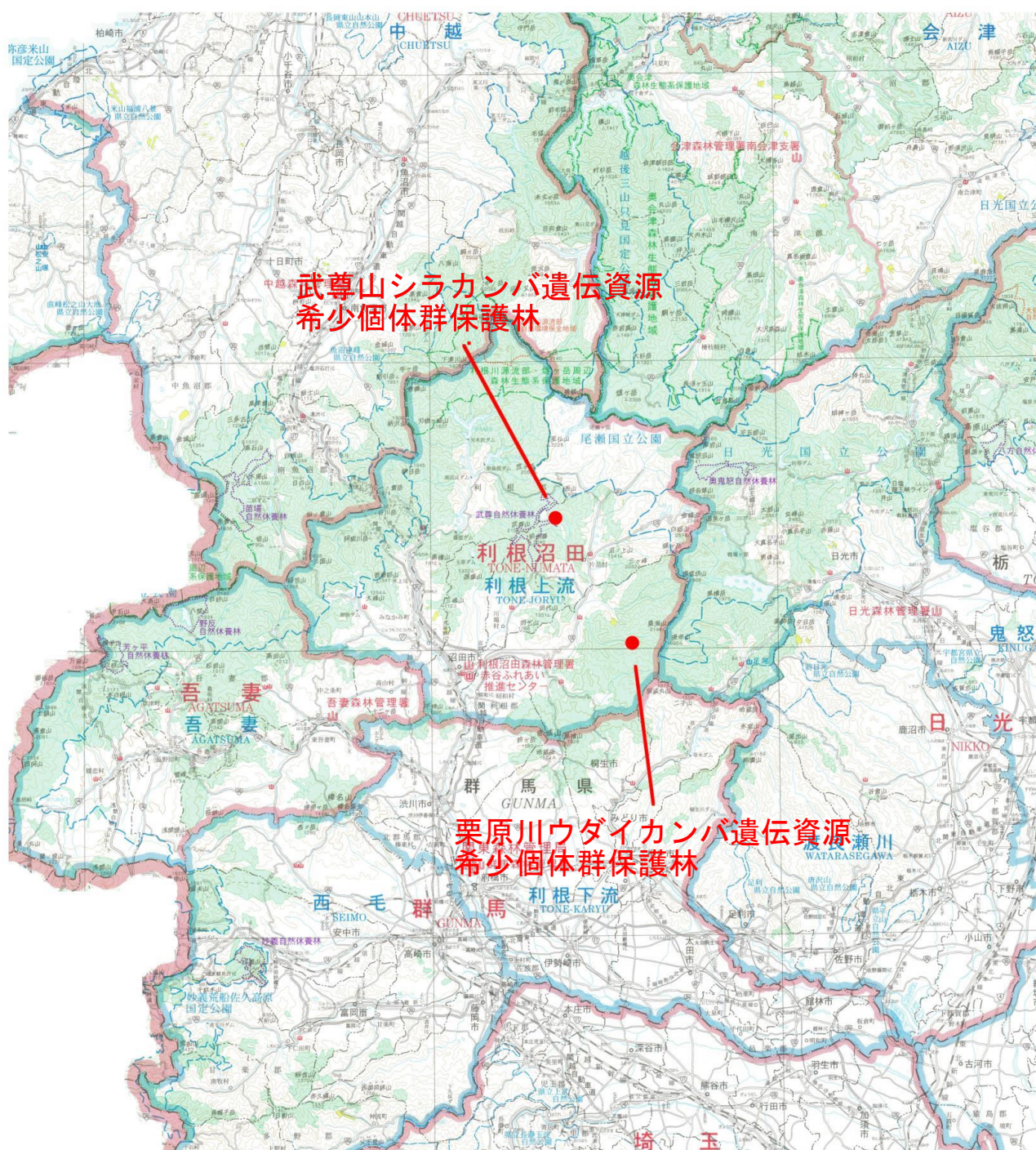
令和6年度 保護林モニタリング調査対象箇所 奥久慈森林計画区（棚倉森林管理署管内）



令和6年度 保護委モニタリング調査対象箇所 那珂川森林計画区（塩那森林管理署管内）



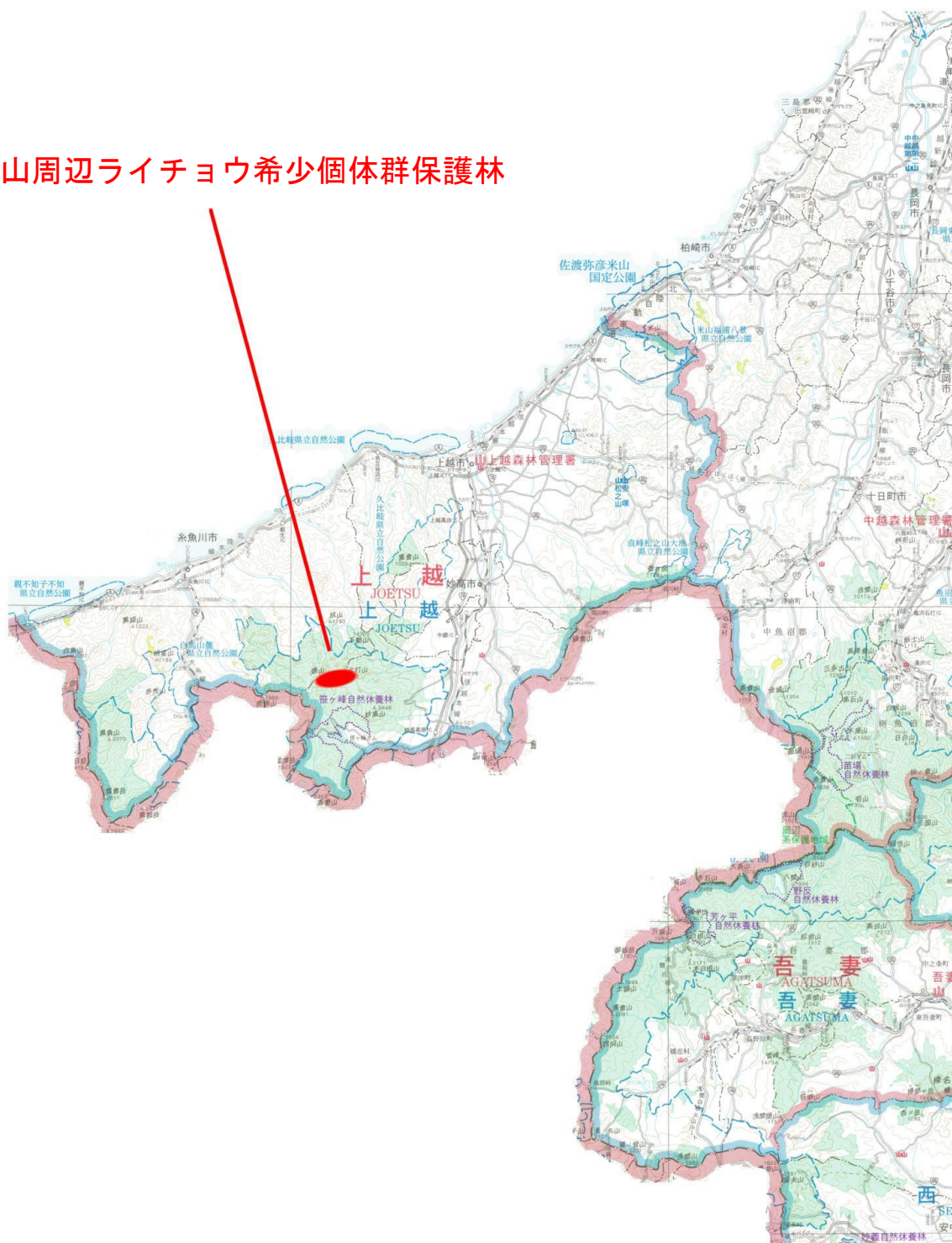
令和6年度 保護林モニタリング調査対象箇所 利根上流森林計画区（利根沼田森林管理署管内）



令和6年度 保護林モニタリング調査対象箇所 多摩森林計画区（東京神奈川森林管理署管内）



火打山周辺ライチョウ希少個体群保護林



令和6年度 保護林モニタリング調査対象箇所 富士森林計画区（静岡森林管理署管内）

